



23回スタディツアー(8月3日~11日)

(1) 今回のツアーの目的

(以下の提案を現地スタッフたちに理解してもらう)

ワンドロップの資金面での支援の仕方が2024年から以下のように変わります。

資金面の支援		学校運営面の支援 (スタディツアー)	
	ワンドロップ支援	現地(タリクさん)支援	ワンドロップ
~2023 末まで	ランチ、 職員のサラリー	施設維持、光熱費、制服、 備品の補充等	文房具、遊具、授業支 援等
2024年 ~	職員のサラリー	ランチ、施設維持、光熱 費、制服、備品の補充等	同上
2025年 ~	資金面の責任負担はな しだが、現地の要望に応 じた金額を支援する	職員のサラリー、ランチ 施設維持、光熱費、制服 備品の補充等	同上

ワンドロップの支援の経緯

2011~2015: 現地スタッフタリクさんの土地に学校を建設

2016~2020: 学校が開校し、毎年新入生を迎え、クラス5までの完全な形態
の学校になる。校舎は3階建て、全校生徒100人規模の学校

2021~2022夏: コロナで学校閉鎖、補習、緊急食糧支援を7回実施

2022~ : ワンドロップ小学校の教育理念を提示

“こんな人になってほしい”という願いを子どもたちにも!

8月4日夜、タリクさんの家で、ミーティングを行った。

ワンドロップとして、現地スタッフが今後マジュンダーワンドロップ小学校を自
主的に運営し、常に子どもたちに視点を置いて、楽しい学校作りを目指すように提
案した。

また、ワンドロップの抱える世代交代の問題についても説明し、理解を得た。

ワンドロップは、代表の大西も、ツアー常連の山中、浅田もみな高齢になってき
ており、今後のワンドロップの活動(バザーを中心とした募金活動)は順次、次の
世代にゆだねていかなければならない。

(2) 現地スタッフたちの反応、意見など

今までワンドロップがカバーしていた約 120 万円のランチと職員給料の支援金を現地スタッフ、主にタリクさん一人で捻出するのは不可能であることを知らされた。

①ビジネスマンであるタリクさんは、学校運営費用を捻出するためのビジネスを起こし、そこから得られた利益を学校運営資金に充てるという案を提示している。学校の周囲で栽培されている「茶」のビジネスが現在脚光を浴びており、可能性はあるかもしれない。

②また、タリクさんは親戚、友人から募金を募ることも考えているが、バングラデシュという途上国で募金をしてくれる人が集まるかどうか危ぶまれる。

③また、バングラデシュの銀行は利率が高いので、まとまったお金（1200 万円ぐらい）を銀行口座に置き、その利息で学校を維持させてはという意見があった。しかし、日本で寄付 30 万円×40 人集めると 1200 万円になる、と言われたのには閉口してしまった。

④日本に留学中のタリクさんの娘、ロシミアさんはミーティングの通訳をしてくれたが、彼女の意見として「SNS で世界にワンドロップ小学校が素晴らしい学校であること、地域に必要とされていることを訴え、FUND をたちあげよう。その作業は自分がしてもよい」と申し出があった。若い年代の人の発言に期待が持てる。

⑤さらに、先生トレーニングの面で力を発揮してくれているヤスミンさんからは、JICA, アガミファンドなどの NGO の支援団体に補助金を出してくれるように働きかけてはどうかという案もあった。

2 時間足らずのミーティングだったが、決定的な解決策は見つからなかった。しかし、現地スタッフたちが学校運営を継続していかなければという強い決意を持って



いることが感じられた。ワンドロップの今回の提案は確かに現地スタッフたちに受け止められたが、現地サイドでしなければならぬ学校運営継続のための資金集めは今後も試行錯誤を続けなければならないことになる。

私たちの想いも同じくワンドロップ小学校が継続されることである。そのため、これからも現地スタッフたちの支援を続けていく。

(3) マジュンダーワンドロップ小学校の現状

今年の2月にたくさんの改革をした。教育理念の提示もその一つだった。先生方に、ワンドロップが考えている教育目標を説明し、ベンガル語にして各教室に掲示した。

今回、その理念をより浸透させるため、各教室で生徒たちに説明し、A3サイズに拡大したものをラミネートし、各教室に貼ってきた。低学年の生徒には少し難しいようだったが、先生たちは理解を深めてくれたと思う。毎日それを見ることで、意識してそのアイデアを共有してくれたらと思う。

今回の活動のハイライトは、保護者参観日を実施したことだ。8月7日の3時間目、各クラスを担当の授業とした。当日は雨で足元が悪いなか、77名の生徒中、半数以上の保護者たち、42名が授業参観に来てくれた。ワンドロップの学校では数年前前に実施したことがあったが、少数の親しか来校せず意識の低さががっかりしたものだった。今回はこんなにも多くの保護者たちが来校してくれた。親たちが子どもの教育に強い関心を持ってきているのが感じられて意外だった。

親たちは普段着のまま飾り気がなく、みんな大変貧しい暮らしをしているのだと思われた。バングラデシュでは授業参観という行事はなく、学校へ出向いて子どもたちの姿を見る経験はなく、初めはとても緊張していてぎこちない様子だった。

授業のあと、保護者たち全員に集まってもらい懇談会を持った。

先生たちは日頃、思っていることを親たちに伝えた。例えば、家の手伝いを優先して学校を休ませることのないようにとか、忘れ物をしないように気をつけてやってほしい等々。そのあと、ワンドロップから各教室に貼ってある教育理念を親たちに説明した。ワンドロップがどんな想いで学校を運営しているのか、また家庭の協力が必要なことなどを訴えた。

親たちからは、学校に対してたくさんの感謝の言葉をもらった。学校へ行くようになって、どんどん新しいことを学んでいるのがわかってうれしかったと。

今回の授業参観で、ワンドロップ小学校がこの地域で本当に必要とされているのだということがひしひしと伝わってきた。この学校を存続させていかなければと思った。

懇談会のあと、親子で給食を楽しんでもらった。子どもと一緒に列に並んでカレーをよそってもらい、教室で子どものそばでいっしょに食べる。いつもどんなものをどんなふうに食べているのかを知ってもらえてよかった。

この日の放課後、先生方とのミーティングでは、先生たちも満足だっ



たようで、定期的にこのような保護者会をしたいと提案があった。次回は10月に先生方が主導して行うということが決まった。楽しみである。

(4)今回気づいたことなど

1. 学級文庫が活用されている。今回、中身をチェックし、各教室の本箱をチェンジした。生徒たちが新しい本が読めるように。もっといろいろな本を紹介してやりたいと思った。
2. 低学年では、まだ「ありがとう」がしっかり言えない生徒がいる。まだ時間がかかりそうだ。教室環境はきれいにできていた。サンダルもきちんとそろえてあった。
3. 時間を守るためのチャイムは用務員のセリーナさんが続けていたのはよかった。しかし、授業時間中に教室に入り込んでいたりする。注意したが、彼女は自分の役割を理解していないようだ。
4. 先生たちが授業をがんばっているのはわかるが、まだあまり工夫ができていないようだ。先生のトレーニングはまだまだ課題である。
5. 学校のまわりの丘にタリクさんは茶畑を作っている。この産業が現地のメディアで取り上げられ、たくさんのやじ馬たちが見に来ている。校庭にオートバイや車を乗り入れて、授業の妨げになっているようだ。警察を呼んで入らないように注意しているがなかなか収まっていない。

おわりに

今回のツアーは滞在期間も短く、また日本からの参加者も大西と山中さんの2人だけで、今までのツアーに比べると生徒たちが私たちと接する機会が少なかったかもしれない。ただ、山中さんは生徒全員に個人のスナップ写真を用意し、生徒が自分でフレームを作ってラミネートで仕上げるといった授業をした。自分の写真を手にした子どもたちのうれしい顔がよかった。家に持ち帰り、家庭で話がはずむことだろう。



他にも、ブンブンゴマや折り紙で鶴のモビール、新聞で兜などの楽しい授業も実施した。今回の山中さんの授業にはすべて、大西とロシミアさんが入り、丁寧な指導ができたと思う。特に、こちらの意図をロシミアさんが察してベンガル語で伝えてくれるので、先生も生徒もすぐに理解して動けたのがよかった。

ワンドロップの支援についての提案を説明し話し合ったときもずっと私たちにはりついて、通訳しながら意図を伝えてくれたロシミアさんには本当に感謝している。うれしかったのは、ロシミアさんが率先して英語の授業をしてくれたこと。まだ大学生であるが、今後、マジュンダーワンドロップ小学校に関わりを持ってくれたらいいなあと思う。

今回のスタディツアーはワンドロップの支援の方向を変えるとても大事な分岐点になった。ワンドロップの提案が現地スタッフたちの意識を変え、ワンドロップの教育理念が、学校の先生や親たちの意識を変え、子どもたちが毎日充実した学校生活を送れるようになることを願っている。

そして、マジュンダーワンドロップ小学校が本当に大切な学校であることを共通理解した今、そのためにどうするかを模索していこうと思っている。

ワンドロップはそのための活動を地道に続けていきます。

ワンドロップのサポーターのみなさん、これからもご支援をよろしくお願いいたします。

OneDrop(バングラデシュ教育支援の会)代表
大西 登志子

今後の予定

- ・9月17日 「きすみのマルシェ」でカレーの販売をします。
(小野市、鍬溪温泉)。
- ・9月26日 「小さなきびた森のカフェ」でカレーを販売します。 (小野市ゆびか温泉)
- ・10月17日～27日 加東市役所ロビーにて活動報告写真展をします。
- ・11月4日 「かわいフェスタ」でカレーを販売します。(小野市コミセンかわい)
- ・11月5日 加東市「秋のフェスティバル」でカレーを販売します。(播磨中央公園)
- ・11月19日 「伊丹マダン」でカレー、リサイクル品の販売をします。

(注)：上記以外にも随時イベント等の予定が入ることがあります。イベントのお知らせはライン配信でお伝えしています。是非、ラインで友達登録をしていただけますようお願いいたします。登録はHPから。

ワンドロップのHP <https://onedropbangladesh.jimdofree.com/>
ワンドロップのブログ <http://onedropbangla.seesaa.net/>
FaceBook <https://www.facebook.com/groups/266407081009954>

最後にワンドロップの提示した教育理念を以下に示します。

Majumder OneDrop Elementary School が目指すもの 学校はよりよい大人になるために学ぶ場所です。

よりよい大人とは、

1. 相手のことを考える、優しい人。
2. 誰かを助けることが喜びと思える人。
3. 自分の意見を持って自ら進んで行動する人。
4. 将来に夢や希望を持ってそれを実現するために努力する人。
5. 健康で意思が強い人

生徒のみなさん、次のことを守ってください。

楽しい学校生活を過ごすために。

1. 時間を守る。
2. 感謝の気持ちを伝える。まず、ありがとうから。
3. 自分を清潔にする。
4. 教室、学校、持ち物をたいせつに扱う。
5. ともだちをたいせつに。助け合う。教え合う。注意し合う。

ワンドロップは今後も、
楽しい学校づくりを目指して支援を続けてまいります。